

『ふれあい・学びあいを活かした学習指導の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、心豊かな児童を育てます。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり、外部の専門家による授業を行ったりして、様々な立場の方とふれあうことで、幅の広い学習活動を行うとともに、コミュニケーション能力を高めます。
- ・ 児童が楽しい学校生活を送ることができるよう、児童の実態を客観的につかみ、それに応じた学級指導を行うための職員の力量向上を図ります。

2 内容

(1) 体験活動の充実

地域の方々の協力を得て、味噌づくり工場の見学（3年生）や七宝焼き制作（4年生）、稲刈り（5・6年生）、町探険（3年生）等、地域教材を活用した多様な体験活動を行いました。



【5・6年生 稲刈り体験】

(2) 外部機関の活用

「ハッピートーク」（5年生）や「ドリームマップ」（4年生）等、ゲストティーチャーによる専門家ならではの授業を行いました。防災教室（全学年）では、あま市防災ネットの皆様のご指導により、災害に備えて学んでおくべき知識を、体験を通して学びました。ハイパー QU 講師を迎えて、検査結果をもとにした児童理解の仕方について、具体的に指導をしていただきました。

(3) 指導力の向上

新学習指導要領の趣旨が反映された授業づくりについて、専門的な知識を持った外部講師を招聘して校内研修を実施し、教職員の授業力向上を図りました。

3 評価

- ・ 各教科や総合的な学習の時間において、地域の皆様にご協力いただき、地域教材を活用した体験活動を充実させることで、児童は、将来の地域を担う人材としての自覚を高め、学習意欲の向上を図ることができました。
- ・ 伝統的な産業の体験や農業体験を通して、児童の郷土に対する関心を高め、理解を深めることができました。さらに、学習に協力していただいた皆様の好意にふれることができたことも、児童にとって心温まる体験となりました。
- ・ 外部講師による専門的な授業は、児童の知的好奇心を高め、視野を広げることにつながりました。特に防災教室では、自他の命を守るために身につけなければならない知識について、体験を通して深く学ぶことができました。
- ・ 「ハッピートーク」では、児童の言葉に対する感性を高めるとともに、言語力の充実を図りました。また、授業における言語活動の充実は、コミュニケーション能力の向上につながり、温かい雰囲気学の級づくり、人間関係づくりにも役立っていると考えます。
- ・ 新学習指導要領の考え方に沿った授業づくりに向けて、講師の先生を招いて校内研修を行うことにより、教職員全体で主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりについての理解を深めることができ、日々の授業の改善に生かすことができました。

4 課題

新型コロナウイルス感染予防のため、さまざまな制約がある中で、地域の人材や教材を活用しつつ、主体的・対話的・深い学びの充実に向けた学習活動をどのように進めていくか、引き続き検討していく必要があると考えます。

『豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ なかま班を中心に日常の活動や学校行事に取り組む中で、異年齢交流の充実を図り、その中で思いやりと感謝の心を育むとともに、児童の自尊感情を高めます。
- ・ 異年齢交流活動の一環として行っている遊びのなかに、施設や用具を活用した動きを取り入れることで、体力向上を目指すとともに、運動の生活化を図ります。

2 内容

(1) 心の交流の推進

異年齢で構成した「なかま」を核として、遊びを中心とした日常的な活動を継続し、よりよい人間関係の育成に努めました。また、新型コロナウイルス感染予防の関係で活動が制約された中、種目や参加方法等に工夫を加えながら、日頃行っているなかま活動の班も活用し、運動会代替行事であるスポーツ大会（秋竹カーニバル）を行いました。



【スポーツ大会
(秋竹カーニバル)】

(2) 運動習慣の定着

なかま活動で外遊びが定着し、2限放課や昼放課には、たくさんの児童が運動場に遊びに出ていました。活動内容の拡充を図ることを目的とし、自主的な運営を支援するために「4WDベルト（二人三脚とムカデの合体競技用）」を補充し、なかまの行事等に活用しています。また、そのほかの遊びの用具も、児童が自由に使えるように設置してあり、休み時間にも活用され、児童の健康増や運動習慣の定着に役立っています。

3 評価

- ・ なかま活動や運動会代替行事であるスポーツ大会（秋竹カーニバル）では、リーダーを始めとする高学年を中心に児童全体で協力して活動することができました。高学年は、下の学年の思いを大切にしながら活動し、その中でリーダーとしての責任感を高め、思いやりの心や自尊感情・自己有用感等を育むことができました。また、低・中学年は高学年への感謝の気持ちをもち、やがては自分たちがこの活動の中心となるのだという自覚を育てることができていました。
- ・ 外遊びを通して運動の習慣を身につけることができるとともに、竹ぼっくりや竹馬・一輪車・フラフープ等の遊びの用具を使うことで、楽しく身体コントロールの能力を高めることができました。

4 課題

新型コロナウイルス感染予防により、児童の活動が制約される中、本校の伝統であるなかま活動の意義を再検証し、教職員全体で共通理解をして、従来の方法にとられない活動の方法を模索する必要があります。すべての児童が主体的に参加し、自己有用感を得られるために、活動の目的、在り方、異学年との関わり方等について、教職員間で十分に共通理解を図り、児童が獲得した力を有効に学校生活に活用していく方策を話し合っていく必要があると考えます。

『ふれあいを大切にした体験活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせます。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよい自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指します。
- ・ 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、一人一人の社会的自立に向け、必要な資質・能力を育てることを通して、児童のキャリア発達を促します。

2 内容

(1) 心の表現・心の交流の推進

自らが思うままに自由に筆を走らせる己書の制作を行った。自分の世界観を楽しく表現することで、心を整え豊かにし表現力を高めました。

小中交流の芸術鑑賞会では、プロによる生の演奏を聴き、七宝北中学校生徒や宝小学校児童との交流を行いました。



【己書制作】

(2) 自然とふれあう活動の推進

花壇等の環境整備を行い、学年の発達段階に応じて、1年生はアサガオ、2年生は野菜、4年生はヘチマ、6年生はジャガイモの栽培を行いました。また、PTA環境整備委員会の方が植えられた花壇の水やりに、委員会活動として取り組みました。

(3) 人とふれあう活動の推進

キャリア教育学習では、コロナ渦のため体験活動が難しい中、パティスリー・パリジャンの社長である松田和也氏を招いて児童に対して講話を行いました。

3 評価

- ・ 己書の取り組みでは、筆で自分の世界観を表現することの楽しさを味わうことができました。上手に書くということより、自由に表現することを第一に置いた取り組みだったため、どの児童も意欲的に自信をもって作品を作り上げることができていました。
- ・ 小中交流会を通して、プロによる生の演奏を聴くことは、感受性豊かな小学生にとって、音楽を愛でる心を育むための貴重な機会となりました。宝小学校児童や七宝北中学校生徒と交流することを通して、中学校進学に対して前向きな気持ちをもつことができました。
- ・ 栽培活動を通して自然を慈しむ気持ちを高め、自然の恵みや生命の不思議を体験することができました。また、育てた野菜を収穫する喜びを味わうこともできました。
専門的な知識や技術をもっている職業人の講話を聴くことで、世の中で働くということの楽しさややりがいについて知ることができました。実際の体験を交えて話してくださったので、児童にとっても身近な話としてとらえやすく、自分の将来について考えるきっかけとなりました。

4 課題

各学年の活動につながりをもたせつつ、より学習効果が上がるような体験活動を厳選し、充実させていく必要性を感じます。体験を通して、子どもたちの心がより前向きに将来に向かって進んでいけるような確かな学びの場を確保できるようにしていきます。